水土里ネット奈良

奈良の土地改良

発行：令和４年1月
奈良県土地改良事業団体連合会
奈良県橿原市城殿町４５９番地
TEL0744-29-1310
FAX0744-29-1312
https://www.naradoren.or.jp

奈良市月ヶ瀬
写真提供：日本風景写真協会　奈良第二支部　支部長　吉崎喜寿　氏

目次

１．令和４年 新年のご挨拶
奈良県土地改良事業団体連合会 会長 奥野信亮 …………………… 1
奈良県 知事 荒井正吾 ………………………………………………… 2
全国水土里ネット会長会議顧問 参議院議員 進藤金日子 ……………… 3
全国水土里ネット会長会議顧問 参議院議員 宮崎雅夫 ………………… 4
２．令和４年度　政策提案・要望活動 ……………………………… 5
３．『農業農村整備の集い』に参加 ……………………………………… 6
４．令和３年度　奈良県土地改良事業団体連合会　理事会　開催 ………… 7
５．令和３年度　近畿ブロック換地関係異議紛争処理実務研修会　開催 ……… 8
６．公益財団法人 農業振興会館　第29回美アップ農村・レディセミナー 開催 …… 9
７．奈良県農業振興功績者表彰受賞者会総会・研修会 開催 ……………… １１
８．(一財)日本水土総合研究所　奈良セミナー ……………………… １３
９．土地改良区紹介　大和平野土地改良区 －吉野川分水～この水を未来に引き継ぐ～－
『水のつながりプロジェクト』小学校交流・稲刈り体験！・１０周年記念式典開催 …… １５
１０．令和3年度　奈良県農村地域づくり協議会PR活動実施 ………………… １７
１１．奈良県農村地域づくり協議会 正会員のご紹介（南檜垣地域づくり協議会）…… １８

令和４年　年頭ご挨拶

奈良県土地改良事業団体連合会
会長　　奥 野 信 亮

奈良県土地改良事業団体連合会の会員皆様方に於かれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素より奈良県の農業の礎を支えて下さり、本会の運営に御協力をいただいておりますことに感謝を申し上げます。

昨年は晩秋に衆議院選挙が行われ、お陰様で比例転出から2度目、通算で6期目の議席をいただくことができました。引き続き本会の会長として、また衆議院議員として土地改良事業の推進に尽力して参る所存でございますので、変わらぬご指導を、本年も宜しくお願い申し上げます。

さて令和二年初頭から続く新型コロナウイルス感染拡大の影響により農業も大きな打撃を受けました。米の販売数量は令和2年4月以降、中食・外食向けを中心として減少し、価格も大幅に下落しました。単価・相場の下落、既往販路・出荷ルートの縮小・停止、加えて入国制限による労働力の不足など農業者の6割以上が売上高にマイナスの影響があったと政府系金融機関の調査に回答しています。

一方では新型コロナウイルスの影響で世界の食料供給網が麻痺、食料不安が広がった結果、19の国が農産物の輸出制限を行いました。世界貿易機関では不当な農作物の輸出制限に警鐘を鳴らしていますが、このような事態を経験し、37%という極めて低い日本の食料自給率に不安を覚えた方も多いのではないでしょうか。食料自給率・食料自給力を高める対策が今まで以上に喫緊の課題と認識されたのではないかと感じています。将来にわたっての安定的な食料の供給は国の使命であり、農林水産業を守り、成長産業化していくことへの注力はまさに「危機管理投資」と言えるのではないでしょうか。またコロナ禍の中、都市圏から地方への移住志向の高まりに加え、就農希望者向け相談会への参加者が増加するなど、農業・農村への関心も高まりを見せています。

このような状況の中、我々が担う農業生産基盤や農村環境基盤の整備は今まで以上に重要性を増してくると思います。従来からの課題に加え、スマート農業や水田フル活用への対応など新たに挑戦しなくてはならない課題も多く、道は平たんではありませんが、農業の礎を支える者の矜持を持って予算確保に努め、尽力して参りたいと思います。

また今年は夏に参議院選挙が行われ、進藤かねひこ先生が我々の組織の代表として二期目の議席の獲得を目指すことになります。皆様にはお世話をお掛けするばかりですが、一丸となってしっかりと取り組んでいければと考えております。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりまして佳き年となりますよう祈念致しまして新年のご挨拶とさせていただきます。本年も宜しくお願い致します。

令和４年　新年を迎えて

奈良県
知事　　荒 井 正 吾

奈良県土地改良事業団体連合会会員の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が止まず、対策に追われた１年でした。引き続き、県では「県民の命を守る」ことを最重点の目標とし、対策に取り組んでまいりますので、会員をはじめ皆様方のご協力をお願いいたします。

奈良県土地改良事業団体連合会におかれましては、昭和35年の創立以来、長きにわたり市町村、土地改良区等による農業農村の基盤整備、維持管理や地域活性化に向けた取組を推進していただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

この間、土地改良事業により、大和平野への農業用水供給にはじまり、五條吉野の柿、大和高原の茶、平群の小菊などに関する生産基盤の確保を行い、奈良県の農業農村整備をけん引していただきました。

県においては、昨年４月に「奈良県豊かな食と農の振興計画」を策定しました。県民の健康で豊かな生活の向上および地域経済の健全な発展に向け、食と農の振興に関する施策を進めてまいります。

農村振興関係では、農地を有効活用し、農業の生産性向上を図るため、特にモデルとなる地域を市町村や地域の皆様をはじめ、直近の宇陀市伊那佐東部地区では地元土地改良区にもご参加いただき協定を結び、「特定農業振興ゾーン」として、各種施策を集中的に取り組んでいます。

また、昨年７月には県内で969カ所ある防災重点ため池を管理されている方に対し、点検・管理・補修などの相談、支援を行う「奈良県ため池支援センター」を設置し、奈良県土地改良事業団体連合会で運営していただいています。

引き続き、よりよい奈良県の農業農村をつくるため、各施策の推進にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、奈良県土地改良事業団体連合会会員の皆様にとって、実り多い年になりますようお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

令和４年　新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員　　進 藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は、奈良県の皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。本年も何卒宜しくお願い致します。

私も皆様にご支援をいただき国政に送り出していただいてから、早５年半が過ぎました。土地改良予算の動向を報告し、私なりの政治スタイルを再確認しながら次のステップを展望してみたいと思います。

昨年末には、令和３年度補正予算が臨時国会において可決、成立しました。土地改良予算は、総額1,832億円（TPP等対策：774億円、米対策：46億円、国土強靭化５か年加速化対策：1,012億円）です。令和４年度当初予算政府原案での土地改良予算は4,468億円（令和４年度からデジタル庁計上となる政府情報システム予算を含む。）であり、令和４年度の予算額は補正と当初を合わせて6,300億円となり、本年度と同水準の予算が確保できる見通しとなりました。

主な事業制度の新規・拡充事項としては、①農家負担がゼロの「農地中間管理機構関連農地整備事業」の工種に農業水利施設や農道、暗渠排水等を追加（現在は区画整理と農地造成のみ）、②「農地耕作条件改善事業」の助成対象に田んぼダム導入に係る調整活動や畦畔補強等とともに除草機器を追加、③省エネ化・再エネ利用に取り組む「かんがい排水事業」の事業費要件や末端要件を緩和、④「土地改良施設維持管理適正化事業」に「防災減災機能等強化対策」（防災・減災機能の強化、施設管理の省エネ・再エネ利用や省力化を図るための施設整備）を新設（国費率を従来の３０％から５０％に嵩上げ）、⑤「土地改良区体制強化事業」の助成対象に小規模土地改良区の業務再編を追加することなどが挙げられます。

私は、これまで全国津々浦々を訪問し、現場の実情を視て、現場の声を聴いて、それらを国政の場に届け、課題解決の実現に努めて参りました。私自身、現場目線、国民目線での政治こそが、いま強く求められていると痛感しています。こうした活動が事業制度の新規・拡充要求に繋ながっているものと確信しています。奈良県内にも度々訪問し、色々なご指摘や多くの要請をいただきました。こうした現場の声を真摯にお聴きし、改善できるものはすぐに改善し、事業制度の新規・拡充に繋げる必要があるものは次年度の予算要求に反映できるように更に努力して参ります。

全国各地の農業・農村は多様であり、それ故に各種要請の内容も多様です。引き続き同志の宮崎雅夫議員と力を合わせ、必要な予算の確保とともに、現場の課題解決に直結する制度構築等に全力で取り組んで参ります。今後とも、これまでの政治スタイルとスタンスを変えることなく、泥臭く鈍重でも、急峻な斜面を一歩一歩踏み締めて前進する牛のように精進し、現場が抱えている課題を一つでも多く解決できるように結果を出して参る所存です。

皆様からお預かりした参議院議員の任期も残すところ７か月余りとなりましたが、まずは貴重な任期を一日たりとも無駄にすることなく政治活動に全力投球して参ります。そして、次のステップに進むためには改選という高くて厚い壁を超えなければなりません。私自身、この壁の突破に専心努力して参る覚悟ですので、皆様の引き続きのご指導とご支援を心からお願い申し上げます。皆様の益々のご健勝とご活躍を心からお祈りいたしております。

令和４年　年頭ご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員　　宮 崎 雅 夫

新年明けましておめでとうございます。奈良県土地改良事業団体連合会会員各位ならびにご関係の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年10月に発足した岸田内閣ならびに11月の第二次岸田内閣において、奈良県の皆様のご支援と、進藤金日子参議院議員はじめ先輩国会議員のご指導により、農林水産大臣政務官を拝命いたしました。本年も気持ちを新たに、現場第一主義に徹しながら皆様のご意見をお伺いしつつ、活動を展開して参る所存ですので、引き続きご指導いただきますようお願い申し上げます。

さて、ここ２年におよぶ新型コロナウィルス感染症の影響により、数次に亘る緊急事態宣言の発令や自粛要請等に伴い、日常生活や社会経済活動など多方面に多大な影響が及び、農林漁業の現場も例外ではありませんでした。加えて、農山漁村では、人口減少や高齢化の進行による従事者不足、資材価格や燃油の高騰など、多くの課題を抱えています。これから迎える可能性があるウィズコロナの時代において、食料の多くを輸入に頼る我が国にとって、経済安全保障の重要性が叫ばれる中、食料安全保障の確立のため、我が国の農林水産業の持続的な発展は不可欠であり、そのためには農業者等の所得を確保し、農業・農村が持つ多面的機能を持続的に発揮する土地改良の推進が重要と考えています。

昨年11月に閣議決定した、「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」に基づき、12月の国会で成立した令和3年度第一次補正予算においては、「デジタル田園都市国家構想」の推進による地方経済の基盤となる農林水産業の活性化、コロナの影響で減退した農林水産物への需要喚起等の支援、農林水産業を地域の成長産業とする輸出力強化や輸出産地支援、農業の生産現場におけるデジタル技術の実装等を通じたスマート化推進対策、さらには、気候変動の影響により激甚化・頻発化する災害等に対応する、防災・減災、国土強靱化の取組強化、農業インフラの老朽化対策や流域治水等の予防保全の強化が網羅されています。これから国会で議論される、みどりの食料システム戦略の実現に向けた政策の推進やカーボンニュートラル実現等、農林水産業の成長産業化や農山漁村の活性化等を推進するための令和４年度当初予算と併せて、これら施策が円滑かつ効果的に実施されるよう、引き続き進藤金日子議員とともに頑張って参ります。

これからも皆様とともに土地改良を推進し、農山漁村の未来の礎を築き、日本の命綱とすべく、進藤金日子議員とともに一所懸命に取り組んで行けるよう、奈良県の皆様には引き続き格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとってよりよい一年となりますようお祈り申し上げ、年頭のあいさつといたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和４年度　政策提案・要望活動

令和４年度の政策提案・要望活動を、奈良県土地改良事業団体連合会、奈良県農業農村整備事業推進協議会、奈良県土地改良区連絡協議会３者合同で、令和３年１１月１６日（火）、１７日（水）に行いました。進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫農林水産大臣政務官及び奈良県選出の国会議員、農林水産省・財務省 に、地域の実情を説明するとともに、予算確保に向けての要望活動を行いました。

進藤金日子　参議院議員

宮崎雅夫　農林水産大臣政務官

高市早苗　衆議院議員

田野瀬太道　衆議院議員

小林茂樹　衆議院議員

堀井巌　参議院議員

佐藤啓　参議院議員

財務省　野村宗成　主計官

農水省　川合規史　整備部長

農水省　安部伸治　次長

【奈良県の農業・農村の振興に関する提案書】

１．産地の競争力強化のため、水利施設の整備や更新、長寿命化対策にかかる支援と必要な予算の確保
２．農地集積、高収益作物導入に向けた基盤整備をはじめ、地域の実情に応じた整備への支援と必要な予算の確保
３．防災重点ため池の整備や機能診断調査など、農地防災・減災、国土強靱化緊急対策予算を十分確保するとともに、ため池の治水利用や田んぼダム等、流域治水対策の推進に貢献する土地改良施設の管理負担を軽減するための支援
４．土地改良施設の保全・管理体制強化を図るため、
（１）ため池管理サポートに対する支援の強化
（２）土地改良施設の診断・指導、複式簿記会計指導などを行う、土地改良区体制強化事業にかかる支援の強化
（３）土地改良施設管理の効率化や人・農地プランの実質化に資する水土里情報の充実活用に向けた支援の強化
（４）土地改良区が管理する農業水利施設の維持管理に対する支援制度の創設
５．農業・農村の持つ多面的機能が継続的に発揮されるよう日本型直接支払い制度（多面的機能支払交付金及び推進交付金、中山間地域等直接支払交付金）の充実と予算の確保

『農業農村整備の集い』に参加

「農業農村整備の集い」が、令和３年１１月１６日（火）に、東京都千代田区シェーンバッハ・サボーにおいて、全国土地改良事業団体連合会の主催により開催されました。

この「集い」は、毎年２回（６月・１１月）行われ、農業農村整備に携わる全国の関係者が一同に会し、それぞれの現場で直面している喫緊の課題を再確認し、これらの諸課題に緊急に対応するべく、農業農村整備の一層の充実と推進を期する事を目的に開催されています。

本年度は、６月の「集い」については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止、１１月の「集い」については、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた開催とし、例年の約半分である４００名程度の参加者となりました。主な出席者としては、国会議員、農林水産省農村振興局幹部職員に加え、都道府県水土里ネットの関係者が参加し、奈良県からは１８人が参加しました。

二階会長

主催者挨拶で、二階俊博　全国土地改良事業団体連合会会長は、令和３年度の事業予算と令和２年度の補正予算と併せて６，３００億円を確保することが出来たことについて皆様に対し御礼を述べ、令和３年度補正予算、令和４年度当初予算についても引き続き皆様にご協力をお願いし、進藤金日子 議員、宮崎雅夫 議員に車の両輪となって頂き、本日参集の皆様と力を合わせて勝ち取っていかなければならない。

金子農水大臣

また、男女共同参画について、土地改良においても大事であり、今後、土地改良団体においてしっかりと取り組んでいかなければならないとの挨拶がありました。

森山議員

そのほか、金子農林水産大臣、森山経済協定対策本部長、進藤金日子 全国水土里ネット会長会議顧問からも力強い支援のお言葉を頂きました。

最後に、予算確保に向けた全10案の要請文が満場一致で採択され、男女併せて3名でのガンバロウ三唱が行われ「集い」は盛会裏に終了しました。

進藤議員

令和３年度　奈良県土地改良事業団体連合会　理事会　開催

令和３年１１月１９日(金)、大和平野土地改良区３階 理事会室において、令和３年度 奈良県土地改良事業団体連合会 理事会を開催しました。上田議長の下、議案が審議され、原案どおりに承認を得ました。

議　案

第１号議案　令和３年度事業並びに会計状況の中間報告について

第２号議案　令和３年度会計収支補正予算の専決について

挨拶
奥野 信亮 会長(リモート参加)

来賓挨拶　岡野 正明
奈良県食と農の振興部 次長

議長　上田 清
大和郡山市長

監査報告　総括監事
東川　裕 御所市長

事務局より　奥野 信亮 会長(第49回衆議院議員当選)、並河 健 天理市長(３期目当選)と山村 吉由 広陵町長(３期目当選)に花束が贈呈されました。

公益財団法人　農業振興会館の ホームページをリニューアルしました。

☆スマートフォン、タブレットでも 見やすい画面になりました。
☆内容をより充実しました。
☆トップページのお知らせ欄では、農業振興会館の新着情報を掲載します。
☆今後も皆さまにとって農業振興会館が身近に感じられるように分かりやすく、利用しやすいツールとなるように努めて参ります。

ホームページには携帯電話のQRコード読み取り機能を利用して、アクセスすることができます。QRコードが利用できない場合は、アドレス(https://www.noushinkaikan.or.jp)を直接入力してください。

令和３年度　近畿ブロック換地関係異議紛争処理実務研修会　開催

令和３年１１月２５日(木)、２６日（金）に、大和平野土地改良区３階 大会議室において、令和３年度近畿ブロック換地関係異議紛争処理実務研修会を開催しました。

本研修会は、換地技術者が換地の異議紛争に関する研鑽を積み、早期解決及び未然防止を図り、日頃の換地業務を円滑に推進することを目的として全国水土里ネット主催により毎年度開催されています。

近畿農政局 農村振興部 土地改良管理課 加藤輝雄課長をはじめ管内の県及び水土里ネットの換地担当など３６名が参加しました。

開会にあたり、主催者である全国土地改良事業団体連合会 松尾房雄 中央換地センター 所長の挨拶の後、加藤輝雄 近畿農政局農村振興部 土地改良管理課長、長谷川憲生 奈良県食と農の振興部 農村振興課長 、奈良県土地改良事業団体連合会 菅谷義寛常務理事より挨拶を頂きました。引き続き、「換地を取り巻く状況について」と題して、令和４年度の農林水産予算概算要求、農用地など集団化関係実績について全国土地改良事業団体連合会 松尾房雄 中央換地センター所長より報告がありました。

その後、検討事項として大阪府、奈良県、福井県より事例発表があり、それに対しての法的根拠や過去の処理事例を交えながら議論がなされました。

近畿農政局 農村振興部
土地改良管理課 加藤課長

奈良県 食と農の振興部
農村振興課 長谷川課長

奈良県土地改良事業団体連合会
菅谷常務

全国土地改良事業団体連合会
中央換地センター 松尾所長

近畿農政局 農村振興部
土地改良管理課
松尾農地集団化推進官

大阪府 南河内農と緑の総合事務所
耕地課 定延主査(整備総括)

奈良県土地改良事業団体連合会
乙木参与

福井県土地改良事業団体連合会
事業部 土地改良課 反保主査

換地関係異議紛争処理事例発表及び質疑応答

事例１	農地中間管理機構関連農地整備事業の着手後、地区内に相続人全員が相続放棄した相続人不存在農地が判明し、農地中間管理機構が 相続財産管理人の選任を申立て、任意売却により所有権移転が行われた事例	大阪府 南河内農と緑の総合事務所 耕地課 主査（整備総括） 定延 淳子
事例２	換地処分取消請求事件の事例 「照応の原則等に反するとはいえないとして棄却された事例」	奈良県土地改良事業団体連合会 支援業務課 参与 乙木 孝
事例３	二線引き畦畔の地区編入処理事例	福井県土地改良事業団体連合会 事業部 土地改良課 主査 反保 陽介

公益財団法人 農業振興会館　第29回美アップ農村・レディセミナー 開催

令和３年１１月２２日（月）、奈良市高畑町の『奈良ホテル 金剛の間』において、公益財団法人農業振興会館主催（事務局：奈良県土地改良事業団体連合会）の『第２９回美アップ農村・レディセミナー』を開催しました。セミナーには、奈良県で暮らす、地域の農業農村の振興のためご活躍されている女性、農業農村に関心のある女性４０名が参加されました。

はじめに、主催者である公益財団法人農業振興会館奥野信亮理事長よりビデオレターでの開会挨拶をしました。続いて 乾新弥　奈良県食と農の振興部長からの来賓挨拶をいただきました。

公益財団法人農業振興会館
奥野信亮　理事長

奈良県食と農の振興部
乾　新弥　部長

ー『薬食同源、薬草の力を見直そう！』ー

続いて、自然療法士　クレメンツかおり先生による講演が『薬食同源　薬草の力を見直そう！』と題して、身近にある雑草だと思われているものの多くが薬草だというお話や、薬草の効果などのお話があり受講生のみなさんが耳を傾け、興味深くお話を聞いておられました。

また、講演の最後にティータイムが設けられ、冬のブレンドとしてスギナ・ヨモギ・トウキなど7種類の薬草を使った薬草茶をテイスティングしながらの質疑応答の時間となり、受講生みなさまからたくさんのご質問があり、終始和やかな雰囲気で講演が終了しました。

アンケートについて

セミナー修了後のアンケートでは、

『とても興味深くおもしろかったです。日々、雑草として抜いているだけでしたが、これからはいろいろ利用してみようと思いました。』

『自然のものを大切にしたい』

『今まで雑草だと思い、普段いやな思いだったのですが、これからは薬草として少しずつ体の為に使ってみたいと思います。』

『普段何気なく見ている雑草にこんな効果があるとはビックリした。』

『薬草について自分自身でも勉強したい』

『良いお話が聞けた。』

『今後の女性就労にとてもいいセミナーだった。』

などご感想をいただきました。

ー【情報交換会】奈良ホテル『大和の間』にて　ー

情報交換会では、来賓として村井副知事にお越しいただき、奈良県の現状や、食と農とは密接な関係があり、女性の活躍は地域の活性化につながるなど、挨拶されました。

続いて、奈良ホテルの食堂宴会課によるテーブルマナー講習後、『令和3年度奈良県農村地域づくり協議会のPR事業』として、地域ぐるみで魅力いっぱいの農村を目指して活動している実例として、南檜垣地域づくり協議会（天理市檜垣町南）が11月３日（水・祝）に開催された『田んぼの運動会』に参加した様子（P17参照）を事務局より説明しました。

奈良県
村井 浩 副知事

セミナー参加者による集合写真ー奈良ホテル玄関前ー

奈良県農業振興功績者表彰受賞者会総会・研修会　開催①

令和3年12月11日(土)、『令和3年度　奈良県農業振興功績者表彰受賞者会総会』を開催しました。本来であれば、開催地である明日香村で総会を開催するところではありますが、本年度は明日香村　森川裕一村長ご出席のもと、橿原市「大和平野土地改良区」で総会を開催したのち明日香村にて現地研修を行いました。

受賞者会会員38名と、来賓の方々にご参加いただきました。

総会では、まず始めに主催者である受賞者会　井上源一会長の開会挨拶があり、来賓の(公財)農業振興会館　奥野信亮理事長、明日香村　森川裕一村長、奈良県食と農の振興部農村振興課　長谷川憲生課長よりご挨拶いただきました。

次に、新会員となる令和元年度受賞者、令和２年度受賞者の方々をご紹介させていただきました。

その後、議事に入り、受賞者会　東口義巳副会長が議長に選出され、議案は全て原案通り可決承認されました。時期開催地については宇陀市となり、任期満了に伴う役員改選については、現役員である井上源一会長、東口義巳副会長、黒瀬礼子副会長を引き続き選任し、就任いただきました。最後に、閉会の挨拶として、受賞者会　中筋弘顧問にご挨拶いただきました。

受賞者会　井上 源一 会長

(公財)農業振興会館
奥野 信亮 理事長

明日香村　森川 裕一 村長

奈良県食と農の振興部農村振興課
長谷川 憲生 課長

萩原茂様・上田美加子様・
上田喜章様・森馬敏夫様

議　案

第１号議案　令和元年度事業報告、収支決算について
第２号議案　令和2年度事業報告、収支決算について
第３号議案　令和3年度事業計画、収支予算(案)について
第４号議案　次期開催地について
第５号議案　任期満了に伴う役員改選について

新会員

【令和元年度受賞者】
曽爾村　萩原　茂
香芝市　縄田　多賀司
奈良市　上深川営農

【令和２年度受賞者】
宇陀市　山口　武
大和高田市　上田　喜章
美加子
天理市　森馬　敏夫

ー　明日香村　開催地挨拶　ー

総会の後、明日香村受賞者の方々から事例紹介をしていただきました。

竹上 一清様

●竹上一清様(平成21年度受賞者)

明日香村では、いちご農家の21組合員のうち17件の農園で高設栽培を実施しており、土がつかないことから清潔ないちごを立ったまま楽に収穫できることで生産増加を果たしました。平成16年から「あすかいちご狩りパーク」を開園し、京阪神から年間5万人以上が明日香村にいちご狩りに来られるようになり、地域産業に貢献しています。

「私は、日々いちごやトマト生産に自信をもって農作業に励んでおります。これからも続けていきたいです。」との思いを紹介してくださいました。

●集落営農組合えいのうキトラ　山本雅義様、上田徳夫様(平成30年度受賞者)

平成18年に集落営農組合を立ち上げるに至った経緯や、トウキ栽培、「えいのうキトラ産」トウキを使用した化粧品のご紹介、「朱雀絵」を再現した葉ボタンの植え付け、地域のお祭りに使用する行灯や神輿の制作、シャクヤク栽培やお花の摘み取り活動など地域の活性化に向けた多くの活動を紹介してくださいました。

集落営農組合　えいのうキトラ様

奈良県農業振興功績者表彰受賞者会総会・研修会　開催②

ー　明日香村　現地研修　ー

●「あすかいちご狩りパーク」

現地研修では、事例紹介をしていただいた竹上一清様の「あすかいちご狩りパーク」へ向かい、いちご狩り体験をさせていただきました。竹上さんが作られた「あすかルビー」はとても甘く、参加されたみなさんは笑顔でおいしそうに食べられていました。

●キトラ古墳壁画体験館「四神の館」

キトラ古墳壁画体験館「四神の館」へ向かい、始めに館外の広場にて、ガイドの三角博様によるキトラ古墳の歴史等についてお話を伺い、続いて明日香村　森川村長から、令和4年3月に開催予定である高松塚古墳や石舞台など明日香村の数多くの歴史資産を巡る「飛鳥ハーフマラソン2022」や、令和4年3月に一般公開予定である「牽牛子塚(けんごしづか)古墳」についてのご紹介、「地域イベントと農業の相乗効果により明日香村を盛り上げていきたい」との意気込みなどを熱くお話しいただきました。

お話の後、「四神の館」の中を見学しました。キトラ古墳壁画の4面マルチ高精細映像や、原寸大のキトラ古墳石室模型、古代飛鳥の暮らしがわかるジオラマ模型など、たくさんの展示があり、明日香村の歴史に思いを馳せるきっかけとなりました。

明日香村　森川 裕一 村長

★明日香村より情報提供

【飛鳥ハーフマラソン2022 第1回】
R4.3.13(日)9:00～
(https://asuka-marathon.jp)

【牽牛子塚(けんごしづか)古墳】
R4.3　一般公開予定
明日香村観光ポータルサイト
(https://asukamura.com)
HOME＞観光＞古墳＞牽牛子塚古墳

昨年の5月に開催を見合わせておりました受賞者会総会・研修会を12月11日に開催することができました。明日香村　森川村長をはじめ、竹上様、えいのうキトラ様、関係者の皆様には大変お世話になり厚くお礼申し上げます。

(一財)日本水土総合研究所　奈良セミナー
「地域の特性を活かした農業と農村の振興」

令和３年１０月２７日(水)、大和平野土地改良区 大会議室において、(一財)日本水土総合研究所　奈良セミナーが開催されました。

このセミナーは、(一財)日本水土総合研究所主催の下、奈良県土地改良事業団体連合会及び(公財)農業振興会館が協賛し、令和２年度 農業振興功績者表彰で優秀賞を受賞された(有)山口農園　顧問　山口武さん(宇陀市)による基調講演が行われました。

プログラム１

基調講演

『地域資源を活かした高生産性農業の展開』

奈良県宇陀市（有）山口農園　顧問　山口　武

「私は元々農家の息子です。宇陀市榛原の中山間で谷あいにある車を一方向にしか動かせない狭く、便の悪い我が家の農地をせめてトラクターでUターンできるような農地にしたいと小学５年生の頃に思い描いておりました。」と話し始めた山口氏は、県土木事務所、民間企業を経て退職した後、４７歳から農業に従事され、自力で農地整備を行われました。

有機ＪＡＳ認定　当初は、家族３人の売り上げが３８０万円くらいだったのを、家族3人で１０００万円を稼がないと農業をやっている意味がないと付加価値をつけて販売する為に宇陀のきれいな水を使って有機農業を始めようと有機農業認定を受けました。

契約出荷　平成１3年、有機JASを取得した翌年には同じハウス面積で１２００万円を売り上げるまでになりました。しかし、売ることは人任せだったので、契約栽培をしようと人任せをやめ、契約をして出荷するという体制を3年目で確立して、３５００万円までに売り上げを上げていくことができました。

法人化　次に売り上げ目標を1億円に設定しました。家族経営では限界があるので、人を雇うことが必要だということがわかってきました。法人化することによって雇用がしやすくなる。１農家でスーパーや大手チェーン店は契約をしてくれない。法人化することで契約ができる。注文が増えてくる。増えてくることによって、人を雇わなければいけない。となる循環が見えてきました。

オーガニックアグリスクール開校　ハローワークで募集をして時給で働いてもらっていたが、農業が本当に好きな人、農業を一生涯の仕事として働きたいという人が来てくれるとは限りません。やはり、人が大事だということで、平成22年にアグリスクールを立ち上げ、本当に農業が好きな人を養成していこうと全国から募集して、宿泊施設も作り、定員２０名で職業訓練校を開校しました。現在までに３５０名から４００名近くが卒業しています。９５%の生徒さんは、農業は、しんどい割に儲からないというイメージが残っていて条件が合わなくてリタイアしていきました。残りの５%が農業に精通した卒業生たちです。

経営の特徴　私が６０歳の時に、まだまだやる気満々ではありましたが、山口農園を息子のやりたい時のタイミングで継承しました。自分のやり方と息子のやり方の違いや意見が合わないこともありましたが、継承後の今では、当時の倍ぐらいに売り上げが伸び、成功だったなぁと思っております。

有機農業　有機農業は、手間暇がかかる作業なのでできないと思われているようですが、全く逆で、栽培に関しては、ほとんどお金が掛かりません。なぜかというと農薬、化学肥料、殺菌剤がいらない。化学物質的な物を使用しませんので、全部自然任せで栽培します。この自然を理解するのに非常に時間がかかり、苦労しました。

農業日誌　私は農業を始めたときから、農業日誌をつけ、ここに書いていた失敗談を翌年に持ち越さない様にしていました。失敗の元は害虫でした。害虫は、ある一定の野菜しか食べないのでそれを利用して、作付けする品種を入れ

替えることによって害虫に食べられない野菜ができます。連作による障害がなくなります。肥料のバランスが良くなります。肥料の成分が均等になると作物の生育がよくなります。他にも日誌をつけることで、同じ圃場でも生育が違うのはなぜかという様々な要因を見つけ出すことができます。それは、水分の量、日当たりの違い、土の質などです。例えば、ハウスの場合でも夏場は水を必要とします。水の回数を少なくする方法もこの日誌から見いだしました。有機栽培のマニュアルがないというハードルを日誌をつけることで越えることができました。

周年出荷体制　栽培の種類は、季節によって少しずつ変わる場合もありますが、常に出荷できる体制をつくることがブランドになると思っています。お客さんは、注文したら商品が手に入ると思っているので、一度欠品すると他から調達しなければいけない、他から調達するともう戻ってきてくれないので、周年出荷体制を取っています。

分業化　山口農園では、加工部、生産部、収穫部、調整部など、部毎に仕事を分けて、その部の仕事が終わればその部は終業するというように５０数名を分業化して無駄な経費をなくすようにしています。

グループ化　地域の農業の貢献ということでは、アグリスクールで次世代の育成をやっております。山口農園では、グループ化して現在宇陀市内では、１０名が同じ販路を使って経営的には安定して販売することができています。独立希望の卒業生に対して、農業を辞めたい農家さんでもいきなり農地を貸してくれません。山口農園が補償するなら貸してくれます。弊社が圃場を2年間借りて管理して有機JASになった圃場をグループや就農者に貸す形を取っています。

６次産業　生産して加工して販売する。2つまではやりやすいですが３つを成立させるのはなかなか難しいです。地域の農家の規格外品を買い上げて加工、販売をウエルネスフーズUDAで行っております。セイタカアワダチソウやヨモギは、入浴剤として見直されています。即金、即購入することで地域貢献になっていると思います。株式会社テラスでは、薬草を活用したレストランを経営していて、女性客が９５％となり、予約しないと入れないというくらいに成長しています。

経営上の問題　最近の集中豪雨によるハウスの冠水被害が非常に多くなりました。この１０月から最低賃金が上がったのも重くのしかかっています。輸送コストの上昇もあげられます。

今後の展望　有機生産物の規模拡大、地域の農業後継者の更なる育成を続けていきます。遊休農地の解消は、ヨモギを奨励していこうかと考えています。「ヨモギ栽培農地」であるという看板を上げないと雑草をつくっていると間違われるので、慎重にやっていかなければならないと思っています。

最後に「弊社の社訓には、『時代のニーズに対応する農園』、『地域や消費者に信頼される農園』、『笑顔あふれる農園』というのがあります。」と笑顔でお話を締めくくられました。

プログラム 2

講演　『過疎地域・振興山村の地域振興に係わる考察』

(一財)日本水土総合研究所　顧問　齋藤　晴美

過疎地域・振興山村市町村の重点施策として、子どもに対する医療費補助、子育て支援や伝統的な祭り・行事の継承、ふるさと納税などがある。

農林漁業対策、観光対策及び定住対策が地域振興の鍵を握る。各地域の例を分析すると比較的都市に近い市では、農林漁業を中心に観光・定住対策など各分野の施策を展開。海岸沿いや県境山間部で都市からアクセスの悪い町や村では、施策効果が十分現れていない傾向があることがわかってきた。

今後の取り組みとして、地域振興策の効果が突出している市町村の分析とアンケート調査結果を基に、人口増減率や財政力指数などのデータを使って数量化理論で解析を試みたい。

プログラム 3

講演　『農村には魅力ある原風景がいっぱい
－インバウンドや国内観光客を農村に誘う－』

(一財)日本水土総合研究所　主席研究員　野道　彰一

農村視点でのインバウンドに誘う話。農村の美しく豊かな地域資源に目を向けて、地域資源であるお宝に光をあてる。人を引き寄せる地域資源の魅力は、地域でしか見られない農景観であり、水と土を拓いた人々が現代に残し、今なお農業が行われている地域、歴史的、技術的な景観を背景に文化が花開いていく。その様な地域資源を食と農に結びつける。そして、農村にインバウンドや国内観光客を誘う。そのためにも、水、土、人、技術やそれに係わる歴史や文化を観光資源として情報発信する。各機関と連携を図り、何日間も滞在してもらえるような質の高い受け入れ体制を整備する具体的な行動に移すことが必要である。

土地改良区紹介

大和平野土地改良区
－　吉野川分水　～この水を未来に引き継ぐ～　－

吉野川分水　大和平野では、昔から深刻な水不足に悩まされ続け、1952年に始まった十津川紀の川総合開発事業により、吉野川（紀の川）の水が幾多の苦難の道を経て大和平野に分水されました。この歴史的な偉業により大和平野に流れ込む水を『吉野川分水』と呼ぶようになり、今では奈良県の命の水となっています。

業務　当改良区は、吉野川分水実現のため1949年に設立された奈良平野利水事業期成同盟会が前身となり、1955年3月に大和平野土地改良区が設立されました。設立当初は吉野川分水の事業促進を図るため組合員の代表機関として基幹水路の早期完成並びに必要な経費の徴収等をその主な業務としていましたが、事業が進むことにより円滑な水の配分業務も加わり、建設事業完了後は、完成した水路の維持管理及び円滑な水の配分並びに組合員から必要な経費の徴収等が主な業務となっています。

吉野川分水歴史展示館　改良区の館内１階には、吉野川分水の歴史が示された関係資料などにより、先賢が残した幾多の業績をたたえ、また、プロジェクションマッピングやドローン撮影を使った映像を取り入れ、子どもから大人まで「楽しみ・学び・親しんでいただける場」として吉野川分水歴史展示館を併設し、吉野川分水を身近に感じてもらい、そして自然への感謝、その恩恵や水源地への感謝の気持ちを後世へ伝えられるよう情報発信しています。

令和３年１０月１８日(月)くもり

「水のつながりプロジェクト」小学校交流・稲刈り体験！

水源地域の川上村立川上小学校５年生と水を利用する地域の橿原市立香久山小学校５年生が、橿原市田中町水土里の会の方々の指導の下、稲刈り体験が行われました。

6月の田植え体験から４カ月。今日は、2校の子ども達が田植えを行った田んぼでの稲刈りです。前回の田植えの時は、田んぼに入るのを躊躇していた子ども達も、手際よく稲刈りを進めていきます。終了後もそれぞれの学校の紹介をするなど交流を深め、いい思い出になるなぁと微笑ましく思いました。（西口）

水のつながりプロジェクト　2011年、紀伊半島大水害が襲った年。吉野川分水によって水が届く田んぼでつくられた「おかげ米」と名付けられたお米が川上村に届けられました。その翌年から水土里の会（橿原市田中町）の皆さんの協力のもと、水源地に位置する川上村で唯一の小学校の児童と、吉野川分水が通る地域の小学校が一緒に田植えや稲刈り体験をし、交流することを柱とした取り組みとして「水のつながりプロジェクト」がスタートしました。

このプロジェクトは、水の恵みを受ける者と育む者とで水のつながりを軸とした交流を図り、歴史や魅力、役割などの理解を深め農山漁村を取り巻く環境への意識を高める取り組みは、令和２年第７回『ディスカバー農山漁村の宝』に選定されました。

吉野川分水のありがたみを伝えるこの取り組みは、子ども達の成長につながることと考えています。

令和３年１２月１７日(金)

「水のつながりプロジェクト」１０周年記念式典 開催

於　大和平野土地改良区　大会議室

式典には、香久山小学校、川上小学校の児童と水土里の会の方々、栗山川上村長、亀田橿原市長はじめ川上村教育員会や奈良県農村振興課、近畿農政局南近畿土地改良事務所の方々が参加されました。

１０年間の中で、台風や大雨により予定通り交流体験ができなかった時や、特に昨年は害虫の被害もあり、気候変動などが、このプロジェクトに影響を与えました。”自然の力”を再認識させられましたが「水土里の会」の他関係者の皆様により、しっかりと準備と管理対応をして頂いたおかげで、プロジェクトは続けられ、毎年、収穫後には、一度も欠かさず、参加校に新米が届けられました。お米をいただくことで感謝とともに農作物を育てる苦労、そして水の大切さとつながりを学校や児童に考えて頂くことができました。「やっぱり、続けてきてよかった」「これからも続けていく意味がある」と思えることを共有できた式典となりました。

式典終了後、催しとして橿原市田中町 水土里の会主催でしめ縄作り体験が行われました。

主催者挨拶
大和平野土地改良区
金澤理事長

主催者挨拶
川上村
栗山忠昭 村長

来賓挨拶
橿原市
亀田忠彦　市長

新米贈呈
水土里の会

感謝の辞
川上小学校代表　香久山小学校代表

閉会挨拶
川上村
弓場盛正 教育長

つながりの歌披露
川上村コーラスグループ華音
講師 松谷文美 先生

記念撮影

令和３年度 奈良県農村地域づくり協議会 ＰＲ活動 実施

令和３年１１月３日（水･祝）、南檜垣地域づくり協議会のイベント～第13回 大和ひみこ米収穫祭～ 田んぼで運動会（Ｐ１８参照）実施会場(天理市檜垣町南　三十八社南の田んぼ)の一角をお借りして令和３年度奈良県農村地域づくり協議会活動組織のＰＲ活動を実施しました。

〈展示ブース〉

〈展示パネル〉

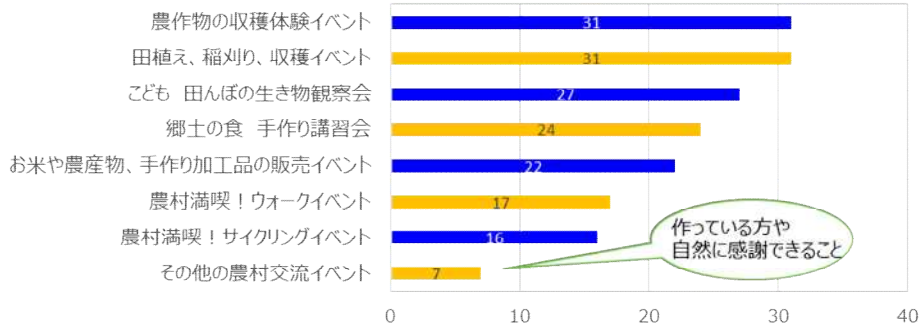
〈展示パネルを見る親子〉

親子３９組約１００名の参加者に対して、協議会のパネル、関連商品の展示、案内チラシの配布、アンケート調査を行いました。

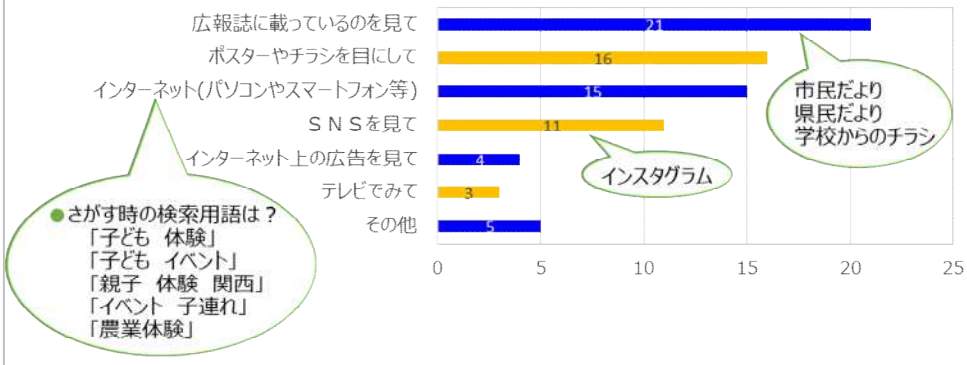
【展示の様子】

【アンケート結果】

Ｑ１．どんなイベントに興味がありますか？(複数回答可)



Ｑ２．いろいろなイベントの情報はどうやって知りますか？
　　または、調べますか？(複数回答可)



Ｑ３．今までにあなたが参加しておもしろかった、良かった農村農業に関係するイベントを教えてください。

・収穫体験（イベント）
　(みかん狩り･イチゴ狩り･ブルーベリー狩り･さくらんぼ狩り)
・田植え「魚やカエルを捕まえたりして楽しかった。」
・稲刈り「経験したことのないことが体験できたので良かった。」
・田んぼの運動会「毎年、運動会が楽しいです。」
・生き物調査「何日かに分けてほしい。１日だけだと参加できない時があって悲しい。」
　　「先生が来て下さったのが良かった。」
・茶摘みイベント･鶏のたまご拾い･芋掘り･発酵教室･酵素シロップづくり

奈良県農村地域づくり協議会　正会員のご紹介

南檜垣地域づくり協議会（天理市）

南檜垣地域づくり協議会は、地域の農産物として青大豆を栽培し、味噌、きな粉、豆乳などの特産品づくりに取り組んでいます。

地元小学校のさつまいもの定植体験や収穫体験を行うほか田植えや稲刈り、ジャガイモ、味間芋等の収穫体験等を実施し、都市住民との交流も行っています。また、夏には水田での生き物調査、秋には田んぼでの運動会を行っており、一年を通じて食育活動や消費者との交流を行っています。

昨年の10月から毎週土曜日に青空市を開催して地域の活性化に取り組んでいます。

【イベントの様子】

～第13回 大和ひみこ米収穫祭～　田んぼで運動会

（令和３年度奈良県農村地域づくり協議会　ＰＲ活動 実施会場にもなりました。P17参照）

〈タイヤころがし〉

〈トラクターとの綱引き〉

〈集合写真〉

田植え

稲刈り

味間芋掘り

じゃがいも掘り

生き物調査

青空市

おめでとうございます

平和土地改良区理事長　飯田喜代視氏が
令和３年秋の叙勲　旭日単光章を受章されました。

叙勲の栄誉に輝かれましたこと　心よりお慶び申し上げます。
長年の土地改良事業推進のご功績が広く認められたものと存じます。
今後とも一層のご活躍をされますようお祈り申し上げます。

勲章は、国家又は公共に対し功労のある者を広く対象として授与されます。
旭日章は、社会の様々な分野における功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた者に授与されます。

行事予定（１月～３月）

開催月	会議・行事名	開催(予定)地
１月	土地改良区技術実践向上研修会	大和平野土地改良区
２月	奈良県土地改良事業団体連合会 理事会・監事会	大和平野土地改良区
２月	公益財団法人　農業振興会館　理事会・功績者表彰審査会	大和平野土地改良区
２月	奈良県農業農村整備事業推進協議会研修会	
３月	公益財団法人　農業振興会館　最先端農業を学ぶセミナー	
３月	奈良県多面的機能支払交付金研修会	大和平野土地改良区
３月	第６２回　奈良県土地改良事業団体連合会　通常総会	大和平野土地改良区
３月	公益財団法人　農業振興会館　令和３年度　農業振興功績者表彰式	大和平野土地改良区

※　今後、変更する場合があります。

●　編　集　後　記　●

令和４年を迎えました。昨年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。
昨年は、様々なイベントに関わる中で、子ども達と触れ合う機会がありました。何にでも一生懸命に取り組む子ども達の姿にこちらも笑顔になって、パワーがわいてくるのを感じました。とても素敵な時間を過ごさせて頂きました。
本年は寅年ということで、何か新しいことに**トラ**いしたいと思っています。え**ガオ～**いっぱいの一年にしていきたいと思います。本年も引き続き、更なる努力を致しまして、精一杯の対応をさせていただきます。一層のご指導、ご鞭撻をお願いいたします。
皆様の益々のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。　また、お目にかかれますのを楽しみにしております。（西口）